



平成 19 年 1 月 31 日

各 位

会 社 名 宝ホールディングス株式会社  
代 表 者 名 取締役社長 大宮 久  
(コード番号 2531 東証、大証 第 1 部)  
問 合 せ 先 取締役 IR 室長 松崎 修一郎  
T E L ( 0 7 5 ) 2 4 1 - 5 1 2 4

## 当社子会社(タカラバイオ株式会社)の業績予想の修正に関するお知らせ

当社子会社であるタカラバイオ株式会社(コード番号 4974 東証マザーズ)が、平成 18 年 11 月 14 日に公表いたしました平成 19 年 3 月期(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)の業績予想を、添付資料のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

なおこれによる、当社の平成 19 年 3 月期の連結業績予想への影響は軽微であり、連結業績予想の変更はおこないません。

(添付)タカラバイオ株式会社の開示資料

以 上

---

### 当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。



平成 19 年 1 月 31 日

各 位

会社名	タカラバイオ株式会社 (コード番号 4974 東証マザーズ)
本社所在地	滋賀県大津市瀬田三丁目 4 番 1 号
代表者	代表取締役社長 加藤 郁之進
問合せ先	常務取締役 木村 睦
TEL	(077) 543-7212
URL	<a href="http://www.takara-bio.co.jp/">http://www.takara-bio.co.jp/</a>
親会社等の名称	宝ホールディングス株式会社
代表者	代表取締役社長 大宮 久 (コード番号 2531 東証、大証第 1 部)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 3 月期（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）の連結及び単体業績予想（平成 18 年 11 月 14 日公表）を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 平成 19 年 3 月期 業績予想数値の修正（平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

## (1) 連結

(百万円未満切捨)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	19,800	△ 550	△ 400
今回修正予想(B)	20,500	△ 300	△ 100
増減額(B-A)	700	250	300
増減率(%)	3.5	—	—
前期実績(平成 18 年 3 月期)	16,534	△1,326	△1,058

## (2) 単体

(百万円未満切捨)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	13,286	△ 206	0
今回修正予想(B)	14,049	△ 166	△150
増減額(B-A)	763	40	△150
増減率(%)	5.7	—	—
前期実績(平成 18 年 3 月期)	14,096	△ 610	△1,621

(注) 業績予想につきましては、当社グループが現時点で入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。今後発生する状況の変化等によっては、実際の業績等は上記予想数値と異なる場合があります。

## 2. 修正の理由

平成19年3月期第3四半期（平成18年4月1日～平成18年12月31日）の売上高は、連結・単体とも計画に対して順調に推移しており、第4四半期も計画を上回ることが見込まれますので、前回（平成18年11月14日、以下同じ）公表いたしました通期予想を上方修正するものであります。

経常利益につきましては、連結・単体とも第3四半期までの実績が計画を上回っていることから、前回公表の通期予想を上方修正するものであります。

当期純利益は、単体では第3四半期に計画外の特別損失（貸倒引当金繰入額196百万円）を計上したことから、前回公表の通期予想を下方修正いたしますが、連結では経常利益の増加に加え、計画に対して特別利益の増加及び税金費用の減少等が見込まれることから、単体の影響を吸収し前回公表の通期予想を上方修正するものであります。

以 上

---

### 当資料取り扱い上の注意点

当資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。